

# EX (絶滅)

食肉目 イヌ科

## ニホンオオカミ

*Canis lupus hodophilax* Temminck, 1839

英名: Japanese wolf

カテゴリー判定基準: ③

旧レッドリストカテゴリー		
1991	1998	2007
Ex	EX	EX

日本固有亜種

オオカミ (*Canis lupus*) の小型の亜種で、本州、九州、四国の山地に生息していたらしいが、1905年1月に奈良県鷲家口で捕獲された若いオスを最後に本亜種と確認できる個体の記録はない。この後まもなく絶滅したと考えられる。

The Japanese wolf (*Canis lupus hodophilax*) was distributed in Honshu, Shikoku, Kyushu but extinct presumably because of vermin control, decline of prey species, loss of suitable habitat, and epidemics such as rabies and distemper. The last specimen was collected in Nara Prefecture in 1905.

### 基礎情報

■**形態** オオカミのもっとも小型の亜種のひとつで、とくに四肢と耳が短い。ほかに前腕下部前面に暗色の縦斑があること、頭骨は聴胞が低いことなどが特徴とされる。頭胴長95~114cm、尾長30cm、耳長80~81mm、頭骨全長186~235mm。古記録から推定された頭胴長は81.2~111.5cm、尾長30.3~41cm。

■**分布域** 本州の各地方、四国、九州に過去の分布情報がある。かつては本州、四国、九州の山地に広く生息していたと考えられるが、分布域の詳細や時代的变化は不明である。ただし、四国、九州については、時代の新しい情報が少ないことから、本州に比べて絶滅時期は早かった可能性がある。

■**生息環境** 本亜種の生息環境については情報がない。

■**生活史** 群れでシカ (*Cervus nippon*) やイノシシ (*Sus scrofa*) を捕食していたと思われる。高次捕食者であるため、生息密度も低く、個体群維持には広大な生息域が必要であり、生息域の縮小、分断などの影響を受けやすかったと考えられる。

### 絶滅に至った経緯とその要因

古来オオカミは、農作物を食害するシカやイ

ノシシを捕食することから人々に尊重されていた。しかし、1732 (享保17) 年頃に狂犬病が海外から侵入し、人間に危害が及ぶようになって以降、捕殺が奨励されるようになった。とくに明治以降は、開発や狩猟による餌動物の減少に加え、ジステンパーなどの伝染病が流行し、またイヌとの交雑も生じ、絶滅に追い込まれたらしい。

### 特記事項

剥製標本は、国内には国立科学博物館の福島県産オス、東京大学農学部の岩手県産メス、和歌山大学の奈良県産メス (?) の3頭しか残っていない。頭骨は、神奈川県、長野県、山梨県、埼玉県、東京都、福井県産など、比較的多数が保存されている。国外には、ライデン博物館 (剥製と頭骨各1点、模式標本)、ベルリン博物館 (頭骨1点)、大英博物館 (奈良県産1905年捕獲個体の頭骨と毛皮、1886年秩父産頭骨1点) に標本が存在する。独立種と見なす説もある。

### 参考文献

- 平岩米吉, 1992. 狼 - その生態と歴史. 築地書館, 東京. 308pp.  
今泉吉典, 1960. 原色日本哺乳類図鑑. 保育社, 大阪. 196pp.  
直良信夫, 1965. 日本産狼の研究. 校倉書房, 東京. 290pp.  
安田健, 1987. 江戸諸国産物帳. 晶文社, 東京. 139pp.

執筆者: 石井信夫 (東京女子大学)